

報告書



No1

No2

令和4年度第4回滋賀会定例研修会（近畿連絡会研修会準備）

①カラスザンショウ

日時・場所：2022年11月13日（日）高島市マキノ町黒河林道

縦縞状のブツブツ皮目、扁平菱形をした棘の跡

小西、佐々木、梶谷、高橋、高田、下川、関澤、橋木、水田、平田（記録）



No3

No4

③ウラジログシ × アカガシ(ウラジログシが主)

③ウラジログシ × アカガシ(ウラジログシが主)

隣接のブナ科近縁種同士では、交雑が見受けられる。

ドングリの肩に毛があることから、アカガシの趣きも感じられる。



No5

No6

③ウラジログシ × アカガシ(ウラジログシが主)

⑤カナクギノキ

葉の裏が蟻により灰白色のため、ウラジログシが主

樹皮の鹿の子模様がなまって、カナクギとなった。



No7

○ナツエビネ

No8

○イチヤクソウ

全草を乾して薬草とすることから、一葉草という。

生薬名は鹿蹄草。



No9

○コバノイシカグマ

No10

○ヤマボウシ 紅葉



No11

○ナツツバキ 紅葉

No12

○ムラサキシキブ



No13

⑥ブナ



No14

○シライトソウ(⑥ブナの根元)



No15

○ツタウルシ 注意!



No16

⑦スギ(裏?)

葉が軟らかいか確認



No17

○イワタバコ



No18

○シロヨメナ



No19

○コバノコマユミ 紅葉

No20

○シロダモ



No21

⑧アカガシ・ミズナラ・トチノキ

No22

⑧ミズナラ・ナメコ



No23

○イワウチワ

No24

○シロヨメナ

	
No25	No26
クマシデ	クマシデ
	
No27	No28
㊦ブナ	ウリハダカエデ 紅葉
	
No29	No30
コハウチワカエデ 紅葉	㊧バッコヤナギにイワガラミ



No31

No32

⑬ウワミズザクラ

⑮カラスザンショウ・ケケンボナシ

カミキリムシのせん孔(?)



No33

No34

⑮ケケンボナシ

〇オオмамシグサ(?)

葉脈に毛があり



No35

No36

⑯タムシバ 冬芽

⑰クマシデ

	
No37	No38
⑱コナラ(枯れ)にイワガラミ	〇アズキナシ 実 落葉
萼片が一個ずつの装飾花が残っている。	果実がナシの果実にて小さいの名の由来。
	表面には、ナシのような白い皮目がある。
	
No39	No40
⑳ミズメ	㉒キハダ 冬芽
幹は白っぽい桜肌	葉柄内芽 冬芽は葉柄の基部に包まれていて、葉が落ちると現れる。
樹皮を傷つくと水のような樹液がでることが名の由来	…ピンぼけですいません <(_)>
	
No41	No42
㉔ホオノキ	㉔ホオノキ 冬芽

	
No43	No44
○タカトウダイ	㊸ケケンポナシ
	アカメガシワの樹皮にそっくり
	
No45	No46
㊸ナンキンナナカマド 実	○キリ
	
No47	No48
㊸ミズメ(別名 ヨグソミネバリ)	㊸ミズメ 短枝
若い枝を傷つけるとサロメチールの匂いがする。	葉痕が10個あるので、10年物の短枝

	
No49	No50
○ムラサキシキブ	㊸ブナ(実成がよい木)
	
No51	No52
㊸ブナ 実	㊹カラスシキミ
	カラスシキミはジンチョウゲ科。これに似るミヤマシキミはミカン科
	
No53	No54
㊺オオウラジロノキ 実	○ムラサキマユミ
別名オオズミ、バラ科リンゴ属	

	
No55	No56
⑩オオツルウメドキ	⑩オオツルウメドキ
ツルウメドキの葉は、両面とも無毛	
オオツルウメドキの裏面の脈沿いには白っぽい縮れ毛が密生	
	
No57	No58
⑪ヤマグルマ	⑨ ミズナラ×ブナ(ミズナラが主)
	
No59	No60
⑨ ミズナラ×ブナ(ミズナラが主) 実	⑩倒木ブナ
このドングリの殻斗は亀裂があり、ブナの交雑があるのか？	トチノキやミズナラは深根性と言われるが、ブナきわめて浅根性である。

